

2025 年度業務実績報告書

提出日 2026 年 1 月 5 日

1. 職名・氏名 教授・森英樹

2. 学位 学位 博士（文学）、専門分野 英語学、授与機関 大阪大学、授与年 2008

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 英語 A（2 単位、毎年開講）1 年生・2 年生（再履修）、2025 年度（前期 2 コマ）
② 内容・ねらい 文法事項の確認と語彙の習得によって英語力の基礎を固める科目。目標は次の 3 点： ・総合的な英語運用能力に必要な語彙・文法知識を身につける。 ・文法の知識を読解や作文等に活用するための基礎固めをする。 ・さまざまな練習問題を通して文の成り立ちを正確に理解する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 主要な文法事項ごとにレベル別の練習問題を作成した。授業と並行して、教科書の内容を踏まえた課題を準備し Google Classroom で取り組ませた。再履修クラスでは、遠隔授業として、オンデマンド教材によって各自のペースに合わせて学習・復習できるようにした。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 英語 B（2 単位、毎年開講）2 年生（再履修）、2025 年度（前期 1 コマ）
② 内容・ねらい 英文法と語彙の知識を用いて英語で表現・発信する力を身につける科目。目標は次の 3 点： ・英語 A で学習する文法や語彙の知識を実際に使えるようにする。 ・英語で発信する練習を通して、総合的な英語運用能力を高める。 ・社会・文化・自然など幅広いテーマで自己表現できるようにする。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 再履修クラスだったため、遠隔授業として、オンデマンド教材によって各自のペースに合わせて学習・復習できるようにした。e-ラーニングシステム教材も取り入れた。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 英語 C（2 単位、毎年開講）1 年生、2025 年度（後期 1 コマ）
② 内容・ねらい 一般的な英文を使いながら英文を正確に読み解く力を身につける科目。目標は次の 3 点： ・一般的なテーマの英文を文脈に応じて正確に読む力を身につける。 ・文法・構文の理解に基づき、英語を論理的に理解できるようになる。 ・身近なテーマを英語で理解することで自らの興味関心の幅を広げる。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 要点を把握しやすいようにハンドアウトを作成した。また、各トピックの理解を深めるため、Google Classroom を使って論述形式の事後課題を定期的に課した。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 英語 D（2 単位、毎年開講）1 年生、2025 年度（後期 1 コマ）
② 内容・ねらい 専門分野に応じた英文を取り入れ総合的な英語運用能力を高める科目。目標は次の 3 点： ・自然科学系の語彙・表現に慣れ、文脈に応じた正確な読解力を身につける。 ・英文の内容に基づき、自分の考えや意見を表現・発信する力を高める。

・自らの専門的な知識・関心と関連づけながらさまざまな英語に触れる。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 要点を把握しやすいようにハンドアウトを作成した。理系用のクラスだったため、教科書の内容・英文と関連づけながら、自然科学系の英語の話題・情報提供も心がけた。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 英語発展Ⅴ（2単位、毎学期開講）1年生・2年生、2025年度（前期2コマ、後期1コマ）
② 内容・ねらい 各種メディアの記事を題材として国内外の社会情勢を英語で知る科目。目標は次の3点： ・ニュースや新聞・雑誌などにある時事的な語彙・表現に慣れ親しむ。 ・さまざまな英語を通して国内外の情勢や現代社会をより深く理解する。 ・各種メディアを使って英語から必要な情報を収集・理解する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 事前の単語課題と事後の関連英文課題によって継続的な学習を習慣づけた。遠隔授業では、Google Classroomによる演習とZoomによる解説を組み合わせた。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 言語学（2単位、毎年開講）1年生、2025年度（後期1コマ）
② 内容・ねらい 世界諸言語のデータに触れ、言語学の概念・理論・分析を理解する科目。目標は次の3点： ・言語学の考え方に慣れ親しみ、言語の本質的理解を促す。 ・身近な言語事象への関心を高め、言語学的な考察を試みる。 ・言語学の知識を背景に、母語を客観的に分析する視点を持つ。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 毎回のワークシートと論述形式の課題に取り組ませて理解を促した。その上で、授業内容の理解に基づく思考力を問う課題を定期的に課した。
(2)その他の教育活動
内容

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
① 著書	【 本】
② 学術論文（査読あり）	【 本】
③ その他論文（査読なし） ・“Speech acts of the Incredulity Response Construction,” <i>Osaka University Papers in Comparative and Contrastive Linguistics</i> 2: 91-102、2025 年 3 月	【 1 本】
④ 学会発表等	【 件】
⑤ その他の公表実績 ・高校受験情報誌『サクセス 15』記事・コラム「しりとり英単語」連載（グローバル教育出版、2025 年 8 月号／10 月号／秋増刊号／12 月号）	【 4 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
「命令文研究における他動的使役性の再考と有標破格構文の扱い」日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究(C) 2024 年 4 月～2027 年 3 月（研究代表者）	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	

5. 地域・社会貢献活動

- ・公開講座『『啓発録』は訳せるか?』（第1回～第3回・オンデマンド配信）（2025年7月～2026年3月：2024年度講座の再公開）

6. 大学運営への参画

(1)補職

- ・国際センター副センター長（R7.4～現在に至る）

(2)委員会・チーム活動

- ・教育研究審議会オブザーバー（R7.4～現在に至る）
- ・教育研究委員会（R7.4～現在に至る）
- ・時間割・カリキュラム協議会（R7.4～現在に至る）
- ・国際委員会（R7.4～現在に至る）

(3)学内行事への参加

- ・オープンキャンパス（R7.8/3）

(4)その他、自発的活動など

英語科目の新旧カリキュラム移行に備えた取組み（部局間の各種調整、関連ウェブサイト・フォームの新規作成、非常勤講師への周知連絡・サポート）